# 冬彦抄

横光利一

青空文庫

畏友、冬彦は詩の生活に於て何を喜んで来たのであらうか。彼は凡庸な詩人のやうに、感覚を愛した。象徴を愛した。歌を愛した。しかし、それは彼の教養のしからしめた所である。もし、彼が非凡な神の鞭を感じ得るものであるならば、――さうして、彼は感じた。確に、彼は彼の教養によつて知り得られた詩を否定した。そこから、彼の詩は始り出した。生活の呼吸が、詩形の振幅を拡張した。構成が始つた。生活の模倣から、生活をして、芸術を模倣せしめた。即ち芸術に位置を与へた彼は、新しくリズムの反逆と苦闘しなければならなかつた。難解な峡谷に身悶えた帆船――自滅はこのとき行はれるであらう――神はそのとき現れるであらう。――私は何を書いたのであらうか。即ち、畏友、冬彦の歴史である。さて、彼の詩は彼の不吉な神を解体し始めた。神との闘争が現れた。偶像を破壊する偶像の浮沈、仮説の信仰、さうして、その彼方への肉迫と退却、無と有との間隔の計量、及びその一つを残した他の一切の高さからの墜落による高さ――かくして、畏友冬彦は「戦争」へと馳け登つた。その何人も未だ夢想だにしなかつた厳格な睥睨、その氷山のごとき奇峭な体格、その摂理ある皺襞の投影。われわれは、もし此の高貴な「戦争」の底辺を知らんと願ふなら、ただ呆然として彼の立方を眺めるに如かないであらう。

# 青空文庫情報

底本：「定本　横光利一全集　第十三巻」河出書房新社
　1982（昭和57）年7月30日初版発行
　1999（平成11）年10月20日第3刷発行
底本の親本：「書方草紙」白水社
　1931（昭和6）年11月5日
初出：「詩と詩論　第五册」
　1929（昭和4）年9月20日発行
※「旧字、旧仮名で書かれた作品を、現代表記にあらためる際の作業指針」に基づいて、底本の旧字を新字にあらためました。
入力：悠歩
校正：惣野
2020年3月28日作成
青空文庫作成ファイル：
このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（https://www.aozora.gr.jp/）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

# 冬彦抄

横光利一

2026年10月1日　第二版

## 奥　付

発行　　青空文庫

URL　　http://www.aozora.gr.jp/
E-Mail　　info@aozora.gr.jp

作成　　青空ヘルパー　　赤鬼@BFSU
URL　　https://aohelp.club/
BiliBili　　https://space.bilibili.com/10060483

Special Thanks
　青空文庫　威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー http://aohelp.club/
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
http://tokimi.sylphid.jp/